

光市都市再生推進協議会 第2回会議 議事録

日時：令和6年1月29日（月）14:00～15:20

会場：光市役所3階 大会議室1・2号

【出席者】

委員：13名（代理出席1名、欠席4名）

オブザーバー：1名（欠席1名）

事務局：6名

【内容】

開会

1 会長あいさつ

2 副会長選出

● 事務局

古田委員の辞職により、再度副会長を選出する必要がある。

本協議会の設置要綱では、「委員の互選によりこれを定める。」とあるが、どうするか。

● 委員

事務局一任。

● 事務局

前回の会議で、会長・副会長の選出時に、委員から「本協議会で議論する内容は専門性が高く、学識経験者をお願いしたい」と意見があったため、中川委員を副会長に選出したいと思うがよいか。

● 委員一同

（拍手）

● 事務局

同意多数と認め、副会長を中川委員とする。

3 議事

（1）光市の防災の現状について

事務局から資料に沿って議題説明ののち、質疑応答等

● 委員

コンパクトなまちづくりを進めるとあるが、明確な“コンパクト”の基準や根拠を教えてください。

● 事務局

議事（２）でどのようにコンパクトにしていくかを示す予定である。

● 会長

先ほどの説明は、防災指針の検討作業の段取りについての説明である。光市のハザードエリアと居住地の重ね合わせを行い、現状把握をすることによって、どのような場所に居住を誘導していくことが望ましいか評価を行っていくということが事務局からの説明である。

● 委員

三島地区のコミュニティセンターが浸水想定区域内に含まれているが、新たに建設されているコミュニティセンターは、垂直避難ができる構造なのか。

● 事務局

三島コミュニティセンターは、平成30年7月豪雨で浸水した経緯がある。新たなコミュニティセンターの建設工事は、1月に着手したところである。「三島コミュニティセンター整備計画」においては、「災害に強い安全安心な建築物」を基本方針の1つとして掲げ、地盤のかさ上げ、止水板の設置などにより浸水リスクの低減を図っている。また、非常電源を屋上に設けるなど災害発生時においても安全性の高い建築物を計画している。

● 委員

浸水想定区域L1、L2と平成30年7月豪雨の浸水被害区域について図示されているが、雨量は平成30年7月豪雨がL1とL2の間、被害区域は平成30年7月豪雨とL2が重なっているように見える。この3つの取扱いはどのように考えていくのか。

指定緊急避難場所の人口カバー率が示されているが、これは近隣住民のカバー率なのか。

● 事務局

L1とL2は48時間の総雨量を想定しており、平成30年7月豪雨の雨量は4日間の総雨量が456mmで、この間、53時間に約430mmの降雨があった。L1、L2と同様の48時間程度の総雨量の目安としていただきたい。検討の際には、平成30年7月豪雨の被害区域は実際に浸水が発生した場所として、居住誘導区域や防災指針の検討に反映する予定である。

国のハンドブックに基づき、指定緊急避難場所から高齢者の徒歩圏とされる500m圏を着色している。市街化区域・用途地域内の着色のあるエリアの人口をカバー圏内人口として地図により算出した。

● 委員

人口カバー率86.6%というのは、あくまでも市街化区域・用途地域内の人口のうちの割合であって、各避難施設が収容できる人数の割合ではないということでしょうか。

● 事務局

避難場所から500m圏の方の人口を示している。

● 会長

今後、避難所の収容人数についても検討していただきたい。

平成30年7月豪雨の被害区域がL2の浸水想定区域と近い形に見えるが、平成30年7月豪雨のような災害が起こってはならないということで、L2ベースでの検討をしたいということ
でよいか。

● 事務局

そのように考えている。

● 委員

平成30年7月豪雨浸水被害区域は浸水深がわからないが、1000年に1度の規模であるL2
と同じような区域となっているが、誰が1000年に1度の確率と定めたのか。

事務局の認識では、平成30年7月豪雨は1000年に1度の規模の災害だったと考えている
のか。1度発生した災害なのでもっと高い確率で発生する可能性があると考えているの
か。

● 事務局

1000年に1度というのは分かりやすく表現したものであり、実際には1年間に起きる確
率が1000分の1というのが正しい表現である。国土交通省が示す「浸水想定（洪水、内
水）の作成等のための想定最大外力の設定手法」という指針に基づき、山口県が定めたも
のを使用し、図示している。

● 委員

平成30年7月豪雨が1000年に1度だったのか、L2規模の災害が発生する可能性がもっと
高いのか見誤らないようにしていただきたい。

● オブザーバー

L2の浸水域と平成30年7月豪雨の浸水域がほとんど一緒ではないかという誤解をされて
いると思うが、平成30年7月豪雨の浸水被害区域の図には浸水深のデータが反映されてい
ない。

偶然、平成30年7月豪雨の浸水域とL2の3m以上の浸水想定区域が似ていただけであ
り、平成30年7月豪雨は1000年に1度の規模ではないと考えている。水深が違うことを認
識いただきたい。

● 会長

エリアをベースに考えるのか、浸水深をベースに考えるのか、事務局には引き続き分析
を行ってほしい。

（2）居住誘導区域ベースエリアの検討について

事務局から資料に沿って議題説明ののち、質疑応答等

● 委員

今後の検討の中で、現在ベースエリアに指定されていないエリアも居住誘導区域に追加
される可能性はあるのか。

地域特性を考慮した検討を行う中で道路の区画など境界の決め方については検討の余地

があるのではないか。

● 事務局

自治会の範囲や道路の区画に基づき、詳細なエリア設定を事務局で検討し、次回の会議で提示したいと考えている。

今回、示したベースエリアをもとに地域特性を踏まえた詳細な区域の検討を行い、居住誘導区域を設定する予定である。

● 委員

鉄道会社としては駅周辺に人に住んでほしいという思いもある。防災指針との絡みもあると思うが、防災や減災の対策を講じることによって居住誘導区域とすることはできないか検討していただきたい。

● 事務局

居住誘導区域内に残存する災害リスクのある地域については、防災指針の中でどのような対策を講じるかを設定する予定である。

● 会長

機械的に作業するため、まとまった団地の中で居住誘導区域と区域外のエリアができ、コミュニティの分断を起こしかねない。歴史性や地形、地物などをまだ反映させていないので、今後の詳細な作業で検討し、居住誘導区域を確定していくことになる。

都市の重要な機能については、防災的な配慮で対策をとって継続していくことは可能かと質問があったが、事務局側ではもちろんそうした検討をしていくとの回答であった。

事務局は、基本的にはベースエリアをもとに詳細な検討を踏まえ、次回、居住誘導区域の素案を示すこと。

4 その他

● 事務局

次回の会議は概ね春頃開催したい。日程については追って連絡する。

閉会